

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	消防施設整備事業	担当課	交通防災課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち	計画期間
	施策	消防・救急の充実	年度～
	基本事業	消防体制の強化	種別
市民協働			法定+任意
予算科目コード	01-090103-01 単独	根拠法令・条例等	消防法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>消防施設の充実と火災発生時の速やかな消火活動を行うため、消火栓や消防用具格納箱等の整備・更新を実施している。</p>	<p>消火栓用消防用具格納箱、防火水槽、AED等の整備・更新を行う。また、本年度は老朽化している消防機械器具置場の更新のための建設（対象：第13分団）を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防用具格納箱は、市民等からの要望により設置。 ・AED機器の維持管理（AEDパッドは2年、バッテリーは5年、本体は7年毎に更新）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>消防施設の充実により、火災発生時における迅速な消火活動や人命救助のための環境整備を図る。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>火災現場への迅速な出動や消火が行える体制を目指す。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>設置年数が古い消火栓用消防用具格納箱（消火栓BOX）の劣化が進んでおり、更新が必要である。更新対象となる格納箱は今後も増加する見込みである。</p> <p>また、供用開始から30年以上経過している消防機械器具置場が9施設あるため、計画的に建替えを行っていくとともに建築場所についても土地の所有者の承諾が必要になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消火栓用消防用具格納箱の交換 通年…交換数…25箇所（合計553箇所） ・防火水槽の撤去、修繕 通年…修繕数…1箇所、解体数…1箇所 ・機械器具置場の更新 6月…既存建物の解体契約 8月…新築工事監理入札 新築工事入札 2月…完成
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<ul style="list-style-type: none"> ・消火栓用消防用具格納箱については、消防団と消防署による調査・点検を行い、更新が必要な格納箱の把握に努める。 ・消防機械器具置場の建替え等については、土地所有者等の承諾を得て、第13分団から実施し、逐次更新を実施していく。 	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	<p>本年度の第13分団消防器具置場兼詰所の建築費が計上されていたが、令和3年度は消防団第4分団の消防器具置場兼詰所の土地代及び設計代を計上したため、ほぼ同額となる。</p>

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
<p>老朽化している消火栓用消防用具格納箱は、消火活動に支障をきたすおそれがあるため、消防団や消防署による点検と共に、自主防災組織等にも訓練時に確認いただくよう協力を呼び掛ける。</p> <p>また、第13分団機械器具置場の建替えに向けて、測量、地盤調査、設計をしたので、令和2年度中に竣工出来るよう努める。</p>	<p>消防団、消防署及び自主防災組織等の協力により、消火栓用消防用具格納箱の点検を行い、不良箇所の早期発見、交換に努めた。</p> <p>また、第13分団機械器具置場の建替えについては、詰所機能を備えた新しい形の機械器具置場が完成し、運用が始まった。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
消火栓用消防用具格納箱新設・交換数（箇所）	15.00	0.00	0.00	21.00	24.00	19.00	25.00
AED設置台数（台）	31.00	31.00	33.00	33.00	33.00	33.00	33.00
成果の動向（→その理由）							
<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 低下	<p>新型コロナウイルスの影響により、訓練等が実施されなかったため、点検の機会が減り、それに伴い不良箇所の発見が前年を下回った。</p>						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>引続き円滑な消火活動のため、消火栓用消防用具格納箱の整備及び維持管理を継続していくことに加え、残り12個分団の機械器具置場の更新を順次実施していく。</p>					

コストの推移						
項目	H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込	
事業費	計	3,474	5,771	34,091	34,142	34,091
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	4	5	25,555	24,754	0
	一般財源	3,470	5,766	8,536	9,388	34,091
正職員人工数（時間数）	481.00	729.00	1,046.00	1,000.00	1,000.00	
正職員人件費	2,008	2,991	4,234	3,869	0	
トータルコスト	5,482	8,762	38,325	38,011	34,091	